

## 今日の説教のポイント <使徒言行録2章1～13節>

ペンテコステ（五旬祭）の出来事から聞くべきことは？

### ①神様が出来事を起こされた、ということ。

「突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、炎のような舌が弟子たちの上にとどまり、弟子たちが色んな言葉で話し出した」— 使徒言行録2章の記事は新約聖書全体の中でも特に驚かされる箇所です。ここから聞き取らなければならないことは何でしょうか？ この出来事は自然に起こったものではありません。「風」と「炎」に「ような」が付いている点に注意です。「風のような音」、「炎のような舌」です。ルカは、自然界のもののイメージを借りて、超自然的なことが起こったことを言い表そうとしているのです。ですから、「こんなことが本当に起こるか？」ではなく、「神様が起こされたのだ！」ということが一番考えなければならないことなのです。

### ②弟子たちが変えられた、ということ。

しかし、この個所が伝えていることは神様のことだけではありません。弟子たちが変えられました。色んな国の言葉で語り出したのです。これもその特異な現象だけに目を奪われてはなりません。聖霊が注がれることは、今まで話せなかった外国語が突然話せるようになるかどうかといったことにあるではありません。弟子たちがイエス・キリストの福音を信じる者となり、その福音を大胆に語り出したことが大事なのです。

使徒言行録は、様々な聖霊の降り方があったことを告げています。8章26節以下では、聖霊については語られず、エチオピアの宦官が聖書を解き明かされてキリストの福音を受け入れ、洗礼を受けて喜びにあふれた話が記されています。聖霊が私たちに注がれたことのあるしは、私たちがイエス・キリストを信じるように導かれること自体に見るべきなのです(コリント I 12:3)。なぜなら、それこそが一番不思議で、一番驚くべき、神様が起こされる出来事であるからです！

弟子たちは伝道に出て行きました。ペンテコステは伝道に励む教会の誕生日です。私たちの教会も共に御言葉に学び、福音の恵みを味わい喜びながら、伝道に取り組んで行こうではありませんか！